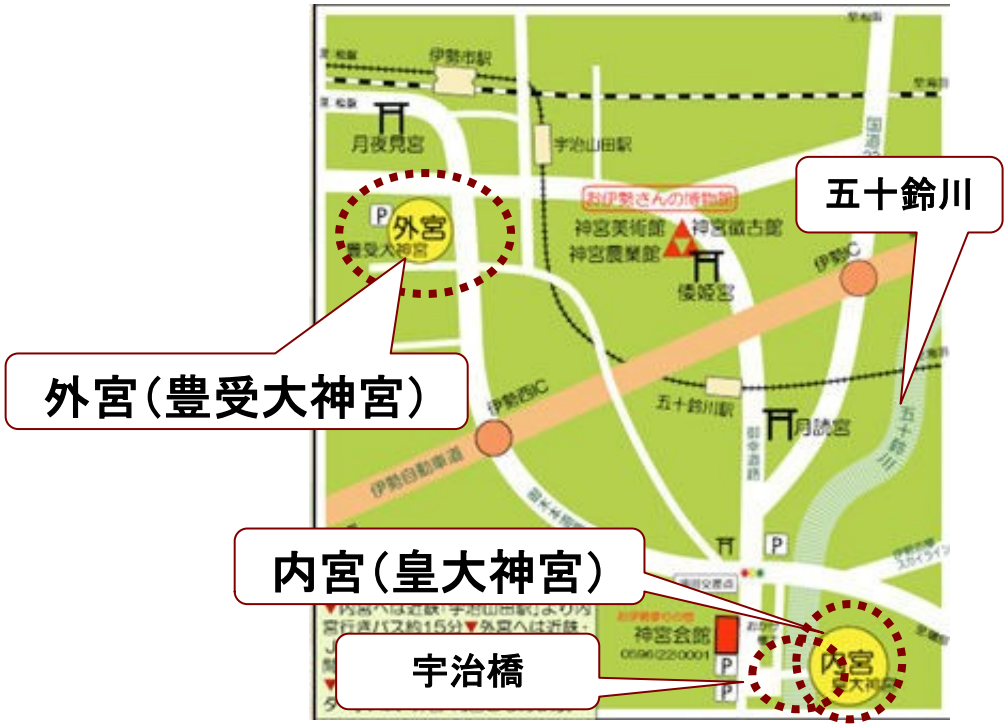
日本の古代史とその文化シリーズ５

第二部「伊勢信仰と大国主（出雲）信仰の神」

参照資料：伊勢神宮
（第１回講座用）

Copy Rights2025 Masakazu inoue, All rights reserved

参考資料1-1：内宮・外宮配置



出典：ウィキペディアから原図引用

宇治橋からの日の出

内宮（新社殿地と古社殿地）

Copy Rights2025 Masakazu inoue, All rights reserved

参考資料1-2 :伊勢神宮別宮14社マップ

出典: ウィキペディア

Copy Rights2025 Masakazu inoue, All rights reserved

参考資料1-3:伊勢神宮別宮14社

内:内宮境内、月:月読宮、瀧:滝宮境内、別:別場所

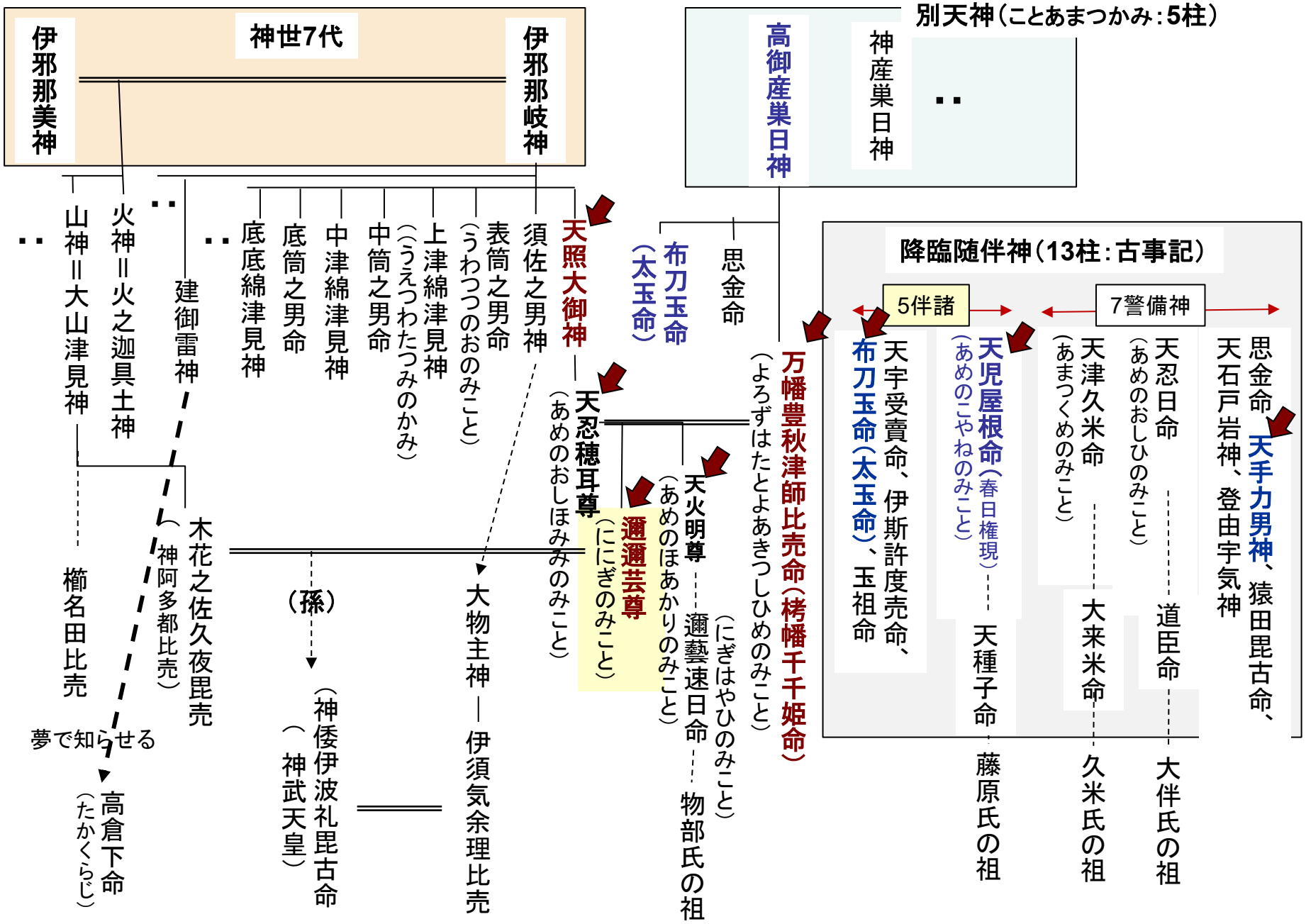
	No	別宮名	祭神	場所	祭神概説
内宮	3	荒祭宮(あらまつりのみや)	天照大御神荒魂	内	天照大御神の荒魂を祀る10別宮で最大の別宮
	5	月読宮(つきよみのみや)	月読尊	月	天照大御神の弟神。月の満ち欠けを教え暦を司る神
	6	月読荒魂宮	月読尊の荒御魂	月	月読尊の荒御魂を祀る
	7	伊佐奈岐宮	伊弉諾尊	月	天照大御神の御父神
	8	伊佐奈弥宮	伊弉冉尊	月	天照大御神の御母神
	—	瀧原宮	天照大御神御魂（和魂）	瀧	皇大神宮の遙宮（とおのみや）と称され最初の宮
	—	瀧原並宮(ならびのみや)	天照大御神御魂（荒魂）	瀧	瀧原宮と二宮並んで奉斎されている
	—	伊雑宮（いざわみや）	天照大御神御魂	別	磯部（いそべ）の大神宮さんと呼ばれ、志摩一円の漁業関係者の信仰があつい。特に漁師や海女さんは「磯守（海幸木守）」を受け、身につけて海に入るのが風習となっている。
	12	風日祈宮（かざひのみのみや）	級長津彦命（しなつひこのみこと）、級長戸辺命（しなとべのみこと）	内	風の神。農作物の成長に風雨の災害のないようお祈りする「風日祈の神事」に由来。元寇撃退となった、伊勢の神風の話しが伝えられている
	13	倭姫宮	倭姫命（やまとひめ）	別	天照大御神の御杖代（みつえしろ）となって、皇大神宮ご創建のご功績。
外宮	4	多賀宮（たかのみや）	豊受大御神荒御魂	外	豊受大御神の荒御魂。外宮の四別宮のうち、第一位
	14	土宮	大土乃御祖神（おおつちのみおやのかみ）	外	古くから山田原やまだのはら の鎮守の神でしたが、外宮の鎮座以後は宮域の地主神、宮川堤防の守護神
	—	月夜見宮（つきよみのみこと）	月夜見尊 月夜見尊荒御魂	別	月読宮のご祭神と同じ。月夜見尊と月夜見尊荒御魂を一つの社殿に合わせてお祀り
	16	風宮	級長津彦命/級長戸辺命	外	内宮別宮の風日祈宮のご祭神と同じ

最初の伊勢神宮小宮の鎮座地

Copy Rights2025 Masakazu inoue, All rights reserved

出典: 日本の神社「伊勢神宮(内宮、外宮)デアゴスティーニ、

参考資料1-4:伊勢神宮(内宮、外宮)正宮の関係神系図



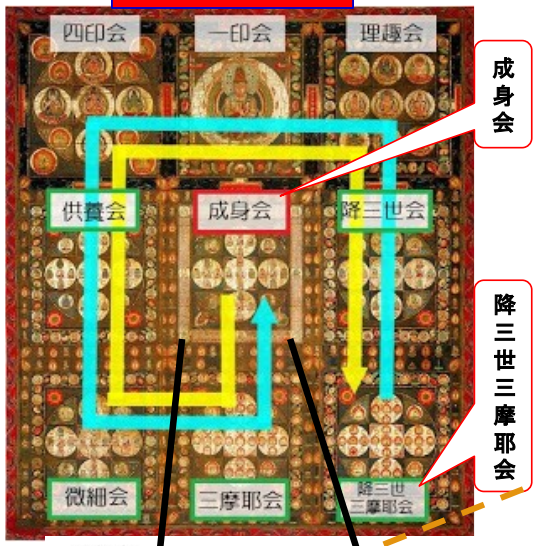
Copy Rights2025 Masakazu inoue, All rights reserved

出典:、「海道東征」をゆく(産経新聞社)、「古事記」(竹田恒泰著、学研)

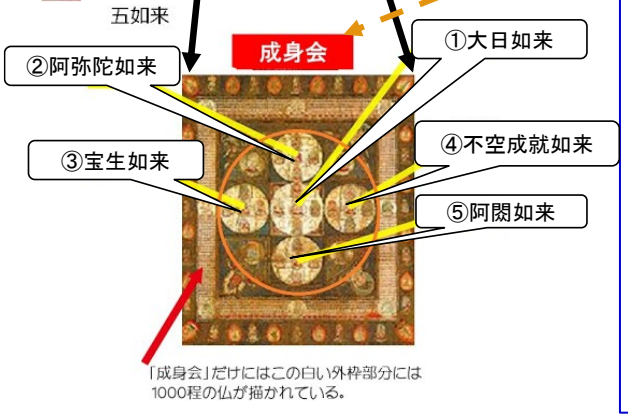
参考資料1-5:胎蔵界曼荼羅と金剛界曼荼羅

弘法大師・空海は恵果に師事し、真言密教の奥義を伝授され日本に持ち帰る。そして、空海はその密教を仏様を用いて絵解きし曼荼羅に表した。曼荼羅は悟りの境地を絵柄で示したものになっており、代表的なものには大日経を示した「**胎蔵界曼荼羅**」と金剛頂経を示した「**金剛界曼荼羅**」があります。

「金剛界曼荼羅」



出典: 仏教美術館



「金剛界曼荼羅」は経典の「金剛頂経」を基本に描かれています。これは大日如来の「智慧」を表しています。ここでいう「智慧」とは真理を明らかにし悟りをひらく働きのことを云います。
金剛とは如来の悟りの智は堅固で一切の煩悩を打ち砕く程の力があるという意味で「金剛」とつけられています。『金剛頂経』の「仏の智慧」を図絵にしたものが金剛界曼荼羅です。

＊「金剛界曼荼羅」は中央の「成身会(じょうじんね)」から始まり右回りに進み最後「降三世三摩耶会」まで展開して見ることができます。**成身会**は密教の教えを仏さまで表したといわれます。大日如来を中心に大日如来・上(西)の)(阿弥陀)如来・下(東)の阿閦(あしゅく)如来がそれぞれ胎蔵界の仏部・蓮華部・金剛部を示し、向かって左(南)の宝生(ほうしょう)如来を宝部、右(北)の不空成就(ふくうじょうじゅ)如来が配置されている。

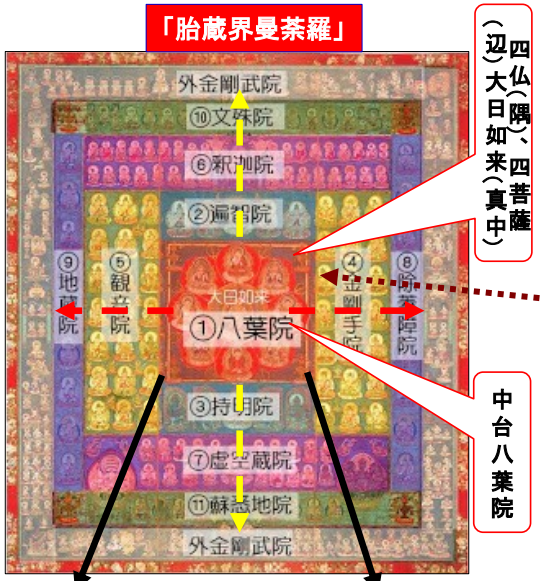
＊阿弥陀如来さまは万物がもつ各々の個性、特徴を見極め、その個性を活かす知恵の仏、阿閦如来さまは物鏡が一切の事象をありのままに分け隔てなく映し出すように、一切をあるがままに受け入れ、分別をしない智恵の仏、宝生(ほうしょう)如来さまは森羅万象を平等に観る智恵で、万物が大日如来の化身であり、平等の仏性をもつ事を覚る智恵の仏、不空成就如来さまは眼耳鼻舌身の五感を正しく統御し、それらによって得られる情報をもとに、現実生活を悟りに向かうべく成就させてゆく智恵の仏です。**大日如来さまは永遠普遍、自性清浄なる大日如来の絶対智であり、他の四智を統合する智恵**である。
この五智・五仏で密教の世界を表現した。この心理を明らかにする智慧で人々を救済する方法と悟りへの道を表しています。

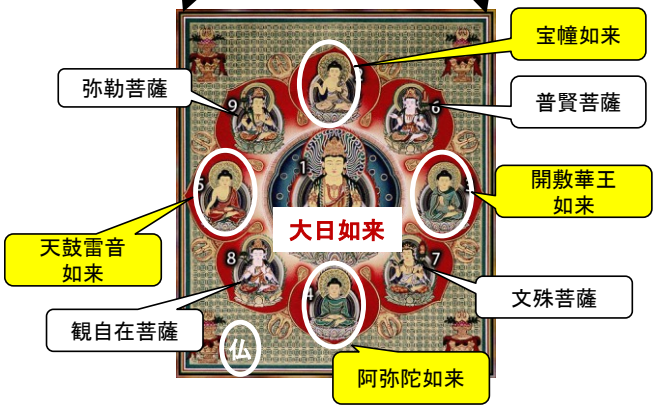
＊金剛曼荼羅図の右回りの黄色線、これは大日如来様が人々を救済する方法の順序をこの曼荼羅で表現しています。反対に降三世三昧耶会から左回りに回ると(金剛曼荼羅図青色線)これは人々が密教を学ぶ順序を表現していると云われています。
大日如来がどのように変身して私たちを救うかを表していることになります。端を入り口として中央の大日如来に近づいていくイメージです。現実世界を貫いている普遍的な理法です。

Copy Rights2025 Masakazu inoue, All rights reserved

参考資料1-6：胎蔵界曼荼羅と金剛界曼荼羅

出典：仏教美術館





胎蔵界曼荼羅：「胎蔵界曼荼羅」は大日如来がどのように変身して私たちを救うかを4つの方位で表している。『大日経』に説かれる「仏の慈悲」を描いたものが胎蔵曼荼羅。

＊「胎蔵曼荼羅」に描かれている諸尊は、それぞれの存在の意義を発揮しながら、相互供養し、大日如来のこの世の全ての生命を生かす大いなる生命ならびに慈悲や智恵を分担し、衆生を救済し、悟りの世界が得られるよう衆生を導いている働きのさまを表しています。つまり、大日如来の真理を役割分担した四百十四の仏で表した理の世界の象徴である。

＊上記絵のように十二の「院」に分かれています。これらの院は中心の中台八葉院から上下左右に展開していることを示してします。

例えば、**中台八葉院**において、ここには蓮の花の上に中心大日如来を囲むように上下左右に「四仏」と隅に各仏を手伝う「四菩薩」が描かれています。つまり大日如来の悟りの世界です

＊**「四仏」**を見ると、宝幢（ほうどう）如来（仏性に目覚め）→開敷華王（かいふけおうにょらい）如来（修行）→阿弥陀如来（悟り）→天鼓雷音如来（涅槃）となり、**「四菩薩」**を見ると、普賢菩薩（菩提心）→文殊菩薩（知恵）→観自在菩薩（慈悲）→弥勒菩薩（未来）というように役割分担をされてます。

＊この大日如来の心理を表す中台八葉院の役割が衆生（人々）へ役割を以て便介されつなげた図になっているわけです。大日如来の心理と現実世界の普遍的理法をつないで悟りの智の道を開いているということです。

＊中台八葉院の

- 左方（北）には観音院と地蔵院があり、これらは大悲の菩薩たち。
- 右方（南）には金剛手院と除蓋障院があり、こちらは大悲を裏付ける大智の菩薩たち。
- 遍智院の上方（東）には釈迦院と文殊院があり、仏法（真理）の体現者とその相承、護持者の代表尊が勢揃いしている。
- 持明院の下方（西）の虚空蔵院と蘇悉（そしつ）地院は、言わば大悲の徳と大智の徳がバランスよくこの院で融合。
  最終的に宇宙法界を宝蔵（宝に満たされている蔵）と観なす虚空蔵菩薩にその両徳が結集されている事を表している。
- 最外院には地獄、餓鬼、畜生、修羅人の五趣世界から、欲界、色界、無色界に至る三界の諸天、さらには日、月、曜宿などの天文神までが描かれている。

Copy Rights2025 Masakazu inoue, All rights reserved

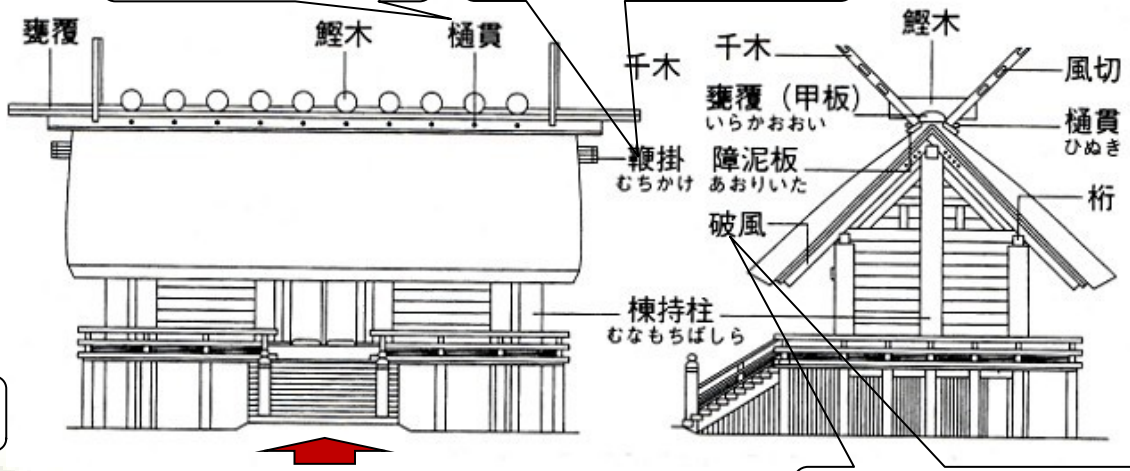
参考資料1-7：神明づくり

◆神明造

神明造の構造は、掘立柱・切妻造・平入・茅葺き。 平側から入る「平入り」

あおりを抑える止め板。両側に貫く

「鞭をかけた」と「御新線の稲束をかけた」の2説あり



平入

切妻屋根の端につけた山形の風雨防止の板

屋根頂上の被せ蓋

甍覆

千木

障泥板
（あおりいた）

雨漏りを防ぐためのおおい板

鰹木（かつおぎ）

屋根を上から押さえるものであったのですが、神社建築だけに残されて、装飾具となっています

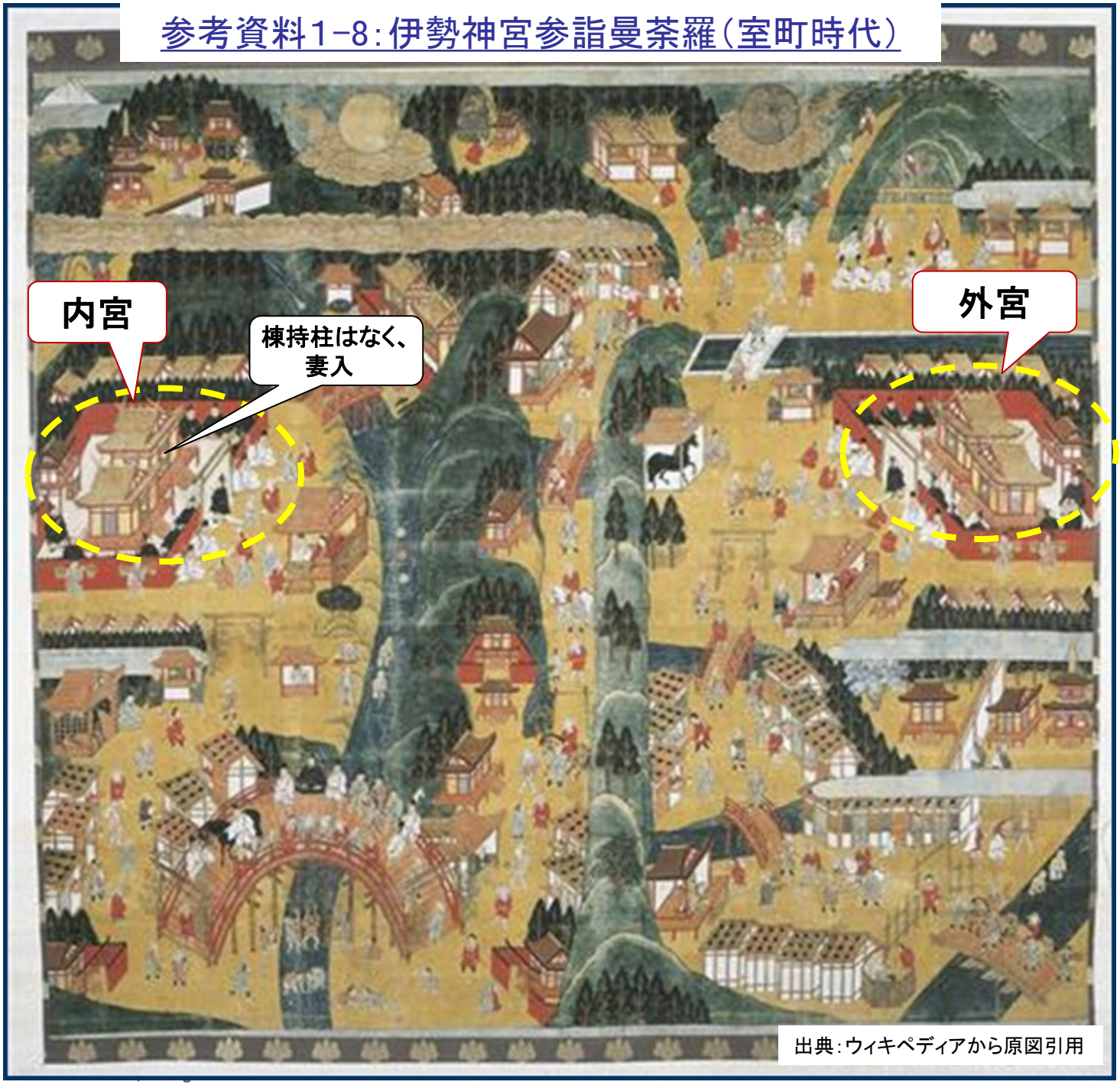
破風
切妻屋根の端につけた山形の板

棟持柱

出典：ウィキペディアから原図引用

Copy Rights2025 Masakazu inoue, All rights reserved

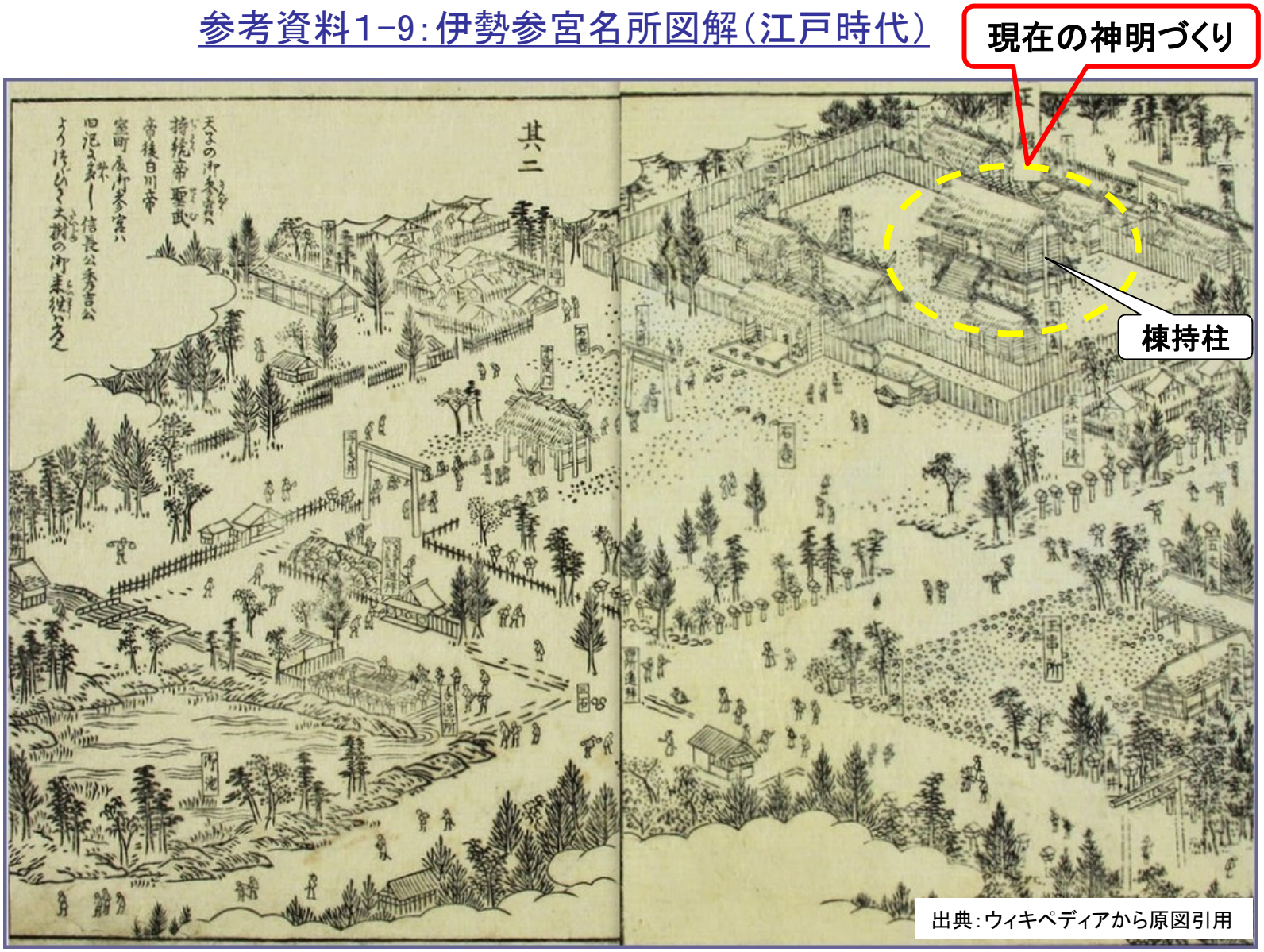
参考資料1-8:伊勢神宮参詣曼荼羅(室町時代)



出典:ウィキペディアから原図引用

Copy Rights2025

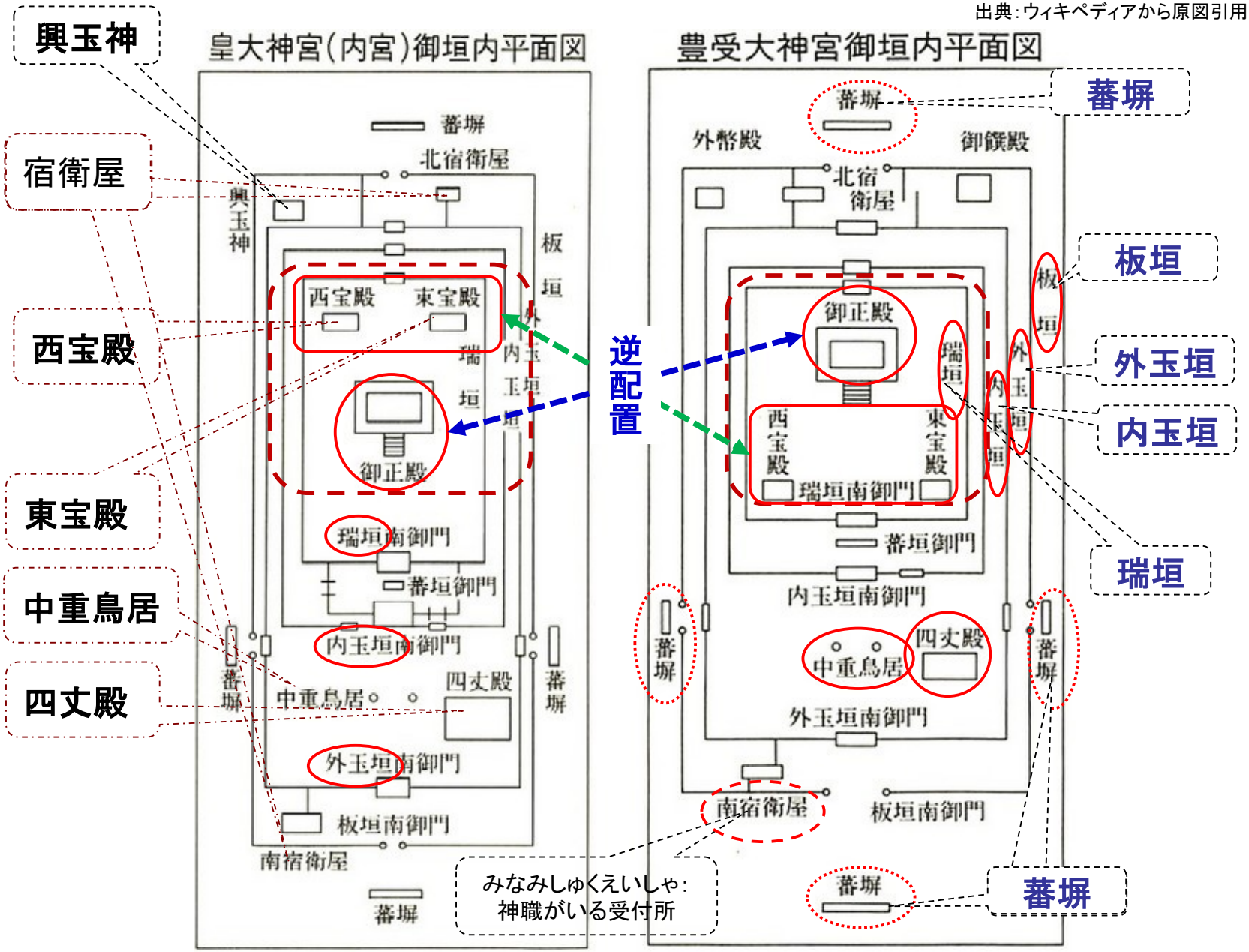
参考資料1-9:伊勢参宮名所図解(江戸時代)



Copy Rights2025 Masakazu inoue, All rights reserved

参考資料1-10:伊勢神宮社殿配置

出典:ウィキペディアから原図引用



Copy Rights2025 Masakazu inoue, All rights reserved